

平成30年度 第1回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成30年5月24日（木）午後4時00分～午後5時15分

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階中会議室

3 出席者（構成員）

市長（議長）	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	西尾政徳
教育委員	藤川貴子
教育委員	市原慶子
教育委員	中島正憲

4 事務局

教育次長	澤村 浩
教育総務課長	井上博司
学校教育課長	家田陽介
人づくり文化課長	早戸智也
秘書課長	西部睦人
秘書課課長補佐	幅 仁史
教育総務課総務係長	須田耕一

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項
 - ・美濃市の教育を議論し、その対策をさぐる（意見交換）
 - ・児童生徒数の推移について（報告）

7 会議録<開会 16:00 閉会 17:15>

発言者	発言内容
西部秘書課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから第1回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。</p>
武藤市長	<p>皆様には教育委員会からの引き続きで、大変お疲れのところ、しばらくの間、総合教育会議をよろしく申し上げます。</p> <p>ご承知のとおり、新しい教育長制度ができて4年目となり、首長が主宰して思いを入れた形で始まっています。</p> <p>教育大綱については、平成28年度から平成32年度までの5年計画で本年度はその中間となる。大綱は、理想は高いものであるが抽象的なものであり、もうそろそろ具体的に方向性を決めて進めていきたい。</p> <p>今年中に具体的にどう進めるか、現状を把握しながら、現状2回の会議をもう少し頻度を上げ前倒し的にいき、年度末には行わず、新年度にはその成果を発表できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>本年度は学校教育や家庭教育の問題点を洗い出し、上半期で取りまとめて、その中で予算化が必要であれば、来年度予算編成に間に合わせていきたいと考えています。</p> <p>今年度は行政側として、①5歳児教育・保育の無償化、②小学校での英語教育の前倒しによる先行実施、③学校の施設整備・改良により新しい環境で勉強に励んでいただきたいと考えておりますので、引き続きご支援ご協力をお願いします。</p>
樋口教育長	<p>教育委員会から引き続き、よろしく申し上げます。</p> <p>今年度は、教育大綱の半ばの時期での検証により、繋いでいくという営みが大事である。いろいろな提案・説明をさせていただき、皆様のご意見を教育大綱へ盛り込んでいきたいと考えていますのでよろしくお願いします。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第4条に基づいて市長が議長となりますので、ここからの会議の進行をお願いします。</p> <p>それでは、市長よろしく申し上げます。</p>
武藤市長	<p>それでは、要綱に基づき、議長を務めさせていただきます。</p> <p>今日は会議の進行を図るため、資料を用意させていただきましたので、それに基づいて進めさせていただきます。</p> <p>次第4、最初に「美濃市の教育を議論し、その対策をさぐる」をテーマとし意見交換をいたします。</p>

樋口教育長	<p>資料1について説明をお願いします。</p> <p>【別紙資料1により説明】</p> <p>教育大綱の今後の具体的方向性について、今の実態や問題点などを種類ごとに分けて載せ、説明する。それが全てではなく入口としてとらえていく。</p>
樋口教育長	<p>【別紙資料2により説明】</p> <p>方向性を見つけていくためには実態等の把握が必要であるため、問題点を説明する。</p> <p>補足として、家庭・社会では情報が多すぎて、特定のものを信じきってしまうため、それに振り回される。学校が、福祉がやってくれるのが当たり前の風潮が強い。経済的理由による二極化が進んでいる。子育てへの不安。などの問題点がある。</p> <p>学校では、学力の二極化する傾向がある。豊かな心の弊害となる言葉づかいがある。いじめはおこっている。(前年度は13名)不登校が数名いる。ドリル学習を中心とした受け身の学習姿勢。などの問題点がある。</p> <p>なお、問題点は資料に掲載したもの以外にもあると考えられますので、了承いただくとともに、他の問題点について意見をいただきたい。</p>
武藤市長	<p>ただ今の説明の他に何か問題点が無いか、また、説明に対する意見・質問等がございましたら発言をお願いします。</p> <p>今日、結論を出すのではなく、上半期中にどんな対策があるのかをまとめていきたい。</p> <p>日本大学の件について騒がれているが、これも家庭、社会、学校の問題である。</p> <p>保育園保護者会の意見交換会では、保育料を安くしてほしいとの要望が毎年あるが、問題はそれだけではなく、子どもが育っていく上で、学校や園をどのようにしていくかが重要であるのではと思う。自分の子どもをどのように育てたいのか、どんな大人になってほしいかを保護者には考えていただき、そのための教育やサービスに対する意見を多くだしていただきたい。</p> <p>学校に設置されている二宮金次郎の銅像が近年撤去されていると報道等で知ったが、撤去理由は、歩きながら本を読んでいるところが歩きスマホを連想されることからで、ベンチに座ったものの注文がされているとのことであるが、これも教育の本質的なことではないと感じている。</p>
中島委員	<p>今、市長が言われた、保育料の減額の件については、減額すれば良いと思う。そうすれば、あと何が問題なのか保護者たち自らが気付くのではな</p>

	<p>いかと思う。</p> <p>二宮金次郎の銅像の件について、荷物を背負っているにもかかわらず足を一步前に進んでいることが伝えたい本質で、そのことをしっかり教えるべきである。見た目で歩きスマホと同様と判断してはいけない。</p> <p>P T A、保護者会では、自分は何ができるか（積極性）をださせるためあなたは何かできるのかの声かけをすることが大切である。</p> <p>不登校、ニートの問題について、不登校から義務教育を終えニートとなるため、不登校のうちに手を打たなければいけないのではないかと。いじめなどその子の問題を解決してあげること。卒業してからの解決は困難であり、小中学生の間に原因と対策をつきとめることが大事ではないかと。</p> <p>ドリル学習の件について、自分たちの頃は繰り返しの勉強により良かったと思う。親が遠慮して言えないのではないかと。家庭での連携が必要である。</p> <p>コミュニケーション、コミュニティスクールの件について、もっと若い人たちが参加できるような仕組みを考えることが必要である。</p>
西尾委員	<p>具体的な対策は難しい。</p> <p>学力、経済の二極化あるが、学校に対しての親の意識の二極化もある。学校に対して関心ある親とそうでない親がいる。学校も地域・家庭と連携するようにしているが親に対する遠慮がある。</p> <p>情報過多の問題について、それに流される親もいるので、学校としての方針を決めて、教育委員会も助けながら対応してもらいたい。</p>
藤川委員	<p>やまびこ子ども食堂について、来てもらうために電話をかけているとのことであったが、受けた側にはそんなに困ってないというプライドがあり、人が集まらず大変だという話を聞いた。新潟の少女殺害事件についても学校だけではどうしようもなく、地域の見守り隊などの連携が必要である。美濃市でも同様である。しかし、保護者自身が協力的でなかったり、関心がないことも感じている。</p> <p>子どもに関する親の集まりについて、今は女性も働いており、なかなか出席できない状況であるため、会議の際は時間帯なども考えていかなければならない。参加してほしい人に来てもらいたい。</p> <p>かえで保育園のなごみカフェについて、お年寄りなかなか行けない状況であるため、行政はその対策を講じてほしい。</p> <p>行政は、要望窓口ではなく、困った時の相談窓口として機能することが本来のあるべき姿ではないかと。</p> <p>お母さんたちが自分で問題を抱え込んでしまうことについては、福祉のコーディネーターがいるがすぐに対応できる体制でなければならない。</p>

<p>市原委員</p>	<p>地域の子育てをしてきたおじいちゃんやおばあちゃんに協力を求めるような柔軟性が必要ではないか。そういった問題について、自治会でも考えていってほしい。</p> <p>行政の相談窓口の多くが本庁舎にあり、相談にいけない方もいると考えられるので、きめ細かい（地域単位）相談体制が必要ではないか。</p> <p>自社が製造している靴下等がテレビで紹介されることがあるが、放送後に発達障害の子をもつ親から問い合わせの連絡があった。「学校からは皆と同じ様に靴下を履かせるよう言われるがどうしても履かないため、どうすればいいのか」という内容であった。専門的なことは解らなかったが、「自社の靴下は和紙でできていて他と違うことに興味を持たせては」と、アドバイスしたら、自分から履くようになったそうである。親が我が子に対して手助けをしたり、熱中するなど一生懸命になりすぎている。子どもが子どもらしく好奇心を育てるような幼児教育が重要であると思う。</p> <p>また、学校側にはみんなと一緒になければならぬ必要性を聞いてみたいとも感じた。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>色々な意見・アイデアがでましたが、キーワードは、伝える、だれにする、何ができる、問いかけるなどでしたが、コミュニケーション体制を実現させるにはどうしたらよいか。</p> <p>各地域に相談体制がとれる場が必要である。</p> <p>子ども食堂について、県の補助事業の申請が2件しか実績がない。県は市町村が行ったものに対する補助であるため利用が少ない。テレビでやっているのを見て影響されてやっているようであり、本来の子どもの貧困のテーマとは合っていないように思うので、やまびこ子ども食堂には市としては補助できない。</p> <p>PTAについては、新年度初めに、学校でやれることやれないことを明確化して伝えるのは、大変よいやり方だと思う。来年度新学期にやってはどうか。</p> <p>次回に、キーワードをまとめて10月、11月の新年度予算に反映させたい。</p> <p>英語教育の方法について、ご意見をお願いします。</p>
<p>市原委員</p>	<p>自分が、伝えたい気持ち、英語にふれあうことが大事であり、人と話すことが好きであれば伝わるものだと、外国のビジネスマンからアドバイスされたことがあるので問題ないと思う。</p>
<p>西尾委員</p>	<p>英語について自分がいかに必要であるかが重要であり、自分は現</p>

	<p>在まで必要なかったように思う。必要だと思う機会があるかが大事であり、必要性を感じさせるようにすることである。</p>
藤川委員	<p>文章として話す必要はなく、単語力が必要であると思う。</p>
武藤市長	<p>英語教育は難しいと思っていた。 外国人を派遣してもらい話してもらって授業を毎週続ければ、知らないうちに分かるようになるのではと思っているがどうか。</p>
市原委員	<p>聴く人に興味があれば身につく。 知り合いに手話を習いたい人がいて、その理由は手話をしているその人と話したいからだという。外国人と話したくなる気持ちが勉強する意思につながる。</p>
家田学校教育課長	<p>文部科学省の学習要領の外国語活動のねらいは正に市原委員さんが言われたとおりです。教科化になっても基本的な精神は同じであり、コミュニケーション能力を高めることが目的であり、市のこの方策は矛盾していないと思います。</p>
武藤市長	<p>日本人の英語の先生では適してないのではないかと。 子どもが英語の教科としてやらされていると思わないか。</p>
家田学校教育課長	<p>ネイティブな方の英語が聴ければそれに越したことはないかと思いません。美濃市では和紙関係のアーティストの方との接する機会があるので、うまくコミュニケーションをとっていくことも考えられる。</p>
武藤市長	<p>文科省の決められたとおりにするより、外国人を派遣して行ったほうがよいのではないかと思う。 先日のTOJ開会式後に、外国人から私のあいさつが「心が前向きになる」挨拶だと褒められたが、通訳されないと分からなかったのが残念であったためである。自分自身で聞き取れたならもっとうれしかったと思う。 今日の意見はまとめさせていただき、次回に繋げていきたいと思いません。全てを取り上げて考えていくことは困難ではありますが、絞り込みをして、できることは委員の皆さまと進めて参りたいと考えております。</p>
武藤市長	<p>【別紙資料3により説明】 平成30年度から平成36年度までの児童生徒数推移について別紙のとおり説明する。</p>

<p>武藤市長</p>	<p>6年先には、子どもの数が200人減少する。また複式学級の問題が起こるので困るのではないかと。今後の学校のあり方を考えていくための参考としていただきたい。</p> <p>【別紙資料4により説明】</p> <p>小中連携教育、小中一貫教育、小中一貫教育制度の関係について別紙のとおり説明する。</p> <p>小中学校9年間で教えていくもので、いつの時期に何を教えるのかは学校によることとする制度もあることをご承知おきいただければと思います。</p> <p>それでは、議長の任を解かせていただきまして、事務局へお返しします。</p>
<p>秘書課長</p>	<p>本日のご意見はまとめてお伝えいたします。</p> <p>それでは、以上で第1回の総合教育会議を閉会といたします。</p> <p>慎重なご協議をどうもありがとうございました。</p>

平成30年度 第2回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成30年11月28日（水）午前10時55分～正午

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階中会議室

3 出席者（構成員）

市長（議長）	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	中島正憲
教育委員	市原慶子
教育委員	藤川貴子
教育委員	別府徹也

4 事務局

教育次長	澤村 浩
教育総務課長	井上博司
学校教育課長	家田陽介
人づくり文化課長	早戸智也
人づくり文化課主幹	高木宏和
秘書課長	西部睦人
秘書課課長補佐	幅 仁史
教育総務課総務係長	須田耕一

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項

○英語に興味を持ち、英語を話そうとする子どもをどう育てていくか

7 会議録<開会 10:55 閉会 正午>

発言者	発言内容
西部秘書課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから第2回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。</p>
武藤市長	<p>今年第2回目となり、新メンバーを加え、違った角度からの議論をお願いいたします。</p> <p>この会議が始まって4年が過ぎようとしており、どこまで進んでいるのかが見えないところであり、良いのか悪いのかも含め感想などの意見をお聞かせください。</p> <p>首長がトップで行うことにより、今までとは違った市民の角度から見た美濃市の子どもたちのことを考えることが重要であります。</p> <p>通常、教育の施策は文部科学省の指示・指導により行っていくことが一般的であります。例えば、施策において、山林が8割以上ある地域と羽島市や岐南町のような山林がない地域とは考え方も違い、せめて地域を3つや4つに分けた施策が必要ではないかと思えます。文部科学省に従うことは当然ですが、個性あふれる故郷教育を自問自答しながら、色々な観点から美濃市らしい教育となるよう皆様方には引き続き活発な意見をお願いいたします。</p>
樋口教育長	<p>定例会から引き続き、よろしく申し上げます。</p> <p>今回は、力を入れて取り組んでおります英語教育について、皆様の建設的なご意見をお伺いしたいと思います。</p> <p>学校教育として、その土台等を提案させていただきますが、学校教育に留まらず、美濃市らしさをどう生み出していくか、追及していくかに意見が発展していければそれを取り入れることができると考えていますのでどうぞよろしく申し上げます。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第4条に基づいて市長が議長となりますので、ここからの会議の進行をお願いします。</p>
武藤市長	<p>それでは、要綱に基づき、議長を務めさせていただきます。</p> <p>本日の総合教育会議は、テーマを「英語に興味を持ち、英語を話そうとする子どもをどう育てていくか」として、英語教育に絞って、委員の皆様からご意見やご提案をいただきたいと考えております。</p> <p>これまでの総合教育会議や教育委員会定例会でも「英語教育」に関することについては、ご報告や説明をさせていただき、ご意見をいただきましたが、ご存知のとおり平成32年度からの新たな学習指導要領では、</p>

	<p>英語教育時間が拡充されることになり、それに先立ちまして美濃市では先行実施を開始しております。</p> <p>この後、平成30年度の取り組み状況、成果と課題等をご説明させていただき、委員の皆様からご意見やご提案を来年度の取り組みの参考にさせていただきたいと考えております。</p> <p>また、市としては現在、平成31年度の予算編成を行っております。今回の会議の中で、子どもたちの英語教育の向上につながるものは、取り入れられればと考えております。</p> <p>では、学校教育課長から説明をお願いします。</p> <p>【第2回総合教育会議 別紙資料により説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料「英語に興味を持ち、英語を話そうとする子どもをどう育てていくか」により、平成28年度の教育総合会議での外国語（英語）教育についての意見を確認し、本年度からの英語教育先行実施により、「英語スピーチコンテスト美濃地区大会」において、優秀賞6名のうち美濃市から5名選出されるという快挙を成すことができたことは、小学校での取り組みが中学校での成果につながったと考えられます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校外国語（英語）科について、（1）学習指導要領の外国語科の目標について説明 2. 先行実施に向けての平成29年度の準備実施内容において、（1）小学校外国語教育準備委員会設置、（2）教務主任会にて確認について説明 3. 平成30年度の取組において、（1）平成30年度より、小学校英語指導助手（日本人）2名から3名への増員、（2）小学校外国語科スタートアップ事業、（3）英語指導助手の連絡会により、各校の情報交流、（4）教員研修について説明 4. 授業の様子…本年11月9日（中有知小学校5年生）において、（1）Greeting（あいさつ）、（2）Song time、（3）Small Talk（本時においては教師が師範を示す）、（4）Challenge time、（5）Kirakira time…評価活動について説明 5. 成果と課題において、①成果、②課題について説明
武藤市長	<p>ただ今の説明に対する意見・質問等がございましたら発言をお願いします。</p>
藤川委員	<p>オーストラリアへの教員研修に行った先生や英語科授業活動についての課題等の報告はあったか。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>オーストラリアで研修をした先生からは大変学ぶことが多かったと聞いています。また、英語科の授業を行う担任の先生方は実直に取り組んでいただいております。英語に苦手意識のある担任の先生たちも、英語で一生懸命伝えようとするモデルとして、大切な役割を果たしています。</p> <p>また、美濃市の場合は、日本人がAETであるため、学級担任とのコミュニケーションがうまくいくという点で、ありがたかったです。子供たちに、外国人AETのネイティブな英語を聞かせる機会は大切で、もっと増やしていきたいのですが、全て英語だと、コミュニケーションがうまくいかず、どうしていいか分からない子も出てきます。</p>
<p>藤川委員</p>	<p>異国語を学ぶことは難しく、大人が学ぶことは、幼稚園や低学年が学ぶ・聴くこととはまた違うと思いますが、教員の方々は忙しい中、とても大変だと思う、定年に近い教員は特に大変だと思います。</p> <p>市長が言われたとおり、分かっても分からなくても英語を1時間聴いて、自分の感覚で話の内容をつかむことは週に1回でもとても必要だと思います。これからの子どもたちは、自国語以外に英語を話せて当たり前の時代となるのではないかと。自分達が子どもの頃より、今は幼稚園から英語に触れる機会が多い時代であるが、環境が整っている子とそうでない子とでは差が出てきます。やりたい子は塾へ行ったり、あるいは地域に外国人が住んでいたりすると、自然に英語を聴く小さい頃から、話す機会が増えていくことが必要だと思います。興味をもつ年齢もそれぞれ違うように思います。</p>
<p>市原委員</p>	<p>先日、地域でハロウィンがあり、家に15名が来てくれました。</p> <p>「ハッピーハロウィン」と言って家に入ることを習って来たが、言える子と言えない子、「メリークリスマス」と言う子もいた。テレビで、家に招き入れる時に「プリーズ」と言っていたが、正しくは「カムイン」と言わなくてはいけないなどを母に教えてあげたことを例に、子どもたちに英語を遊びの中で触れさせ、一言でも英語を話すことをきっかけに次の段階へ移ることが大切だと思う。現地では、英語は大げさに表現しなければならないこと(リトルサムシング:ほんのちょっとしたもの→こんなにすごいものと表現する)や、英語を話すより、筆ペンで巻紙に書いて伝えた方が受け入れられることを教わったことが印象的でした。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>昔、子どもに英語を言われ、意味を訊くも日本語に直す必要がない(どう説明してよいかわからない)と言われ、戸惑いました。</p> <p>自分達は、「日本語」→「英語」(「おはよう」→「グッドモーニング」)と教えられたが、今の教え方は違うのか。</p>

学校教育課長	<p>今は、聴かせることが多い。特に外国語活動では、どんどん聴かせて体感で学ぶことが主です。</p>
中島委員	<p>学校教育では、これからとても良い事やっけていられると思いますが、それに地域がついていけない。</p> <p>先日の活動において、英語を話したいという人達が美濃市でこんなに大勢いるのかと思いました。理由を聞くと、たまたま家の前を通った外国人と話したのがとても楽しかったが、それがたまにしかないため、機会があれば参加して話したいとのこと。毎日5日間で20人くらいいました。その方たちは、ネイティブな英語に触れたい、話す機会が欲しい。英語教室では、生徒は英語が分かっているものだとして授業を進めたがついていけないため、段階に合わせ、2教室に分けらうまくいきました。レベルに合わせて行うことが大切です。また、学校でやっていることを地域でどう支援していくかを考えなければならないと思います。例えば、「コーヒー」は和製英語であり、「カフェ」であることを認識させるため、こういう日本語はこういう英語とわかるように、店の看板を考えたりして子どもたちの目につくようなことを地域でも行うことが影響力があるのではないかと思います。</p> <p>外国人と話す勇氣、自信を持たせることをしていかないと英語に親しみが湧かないのではないかと思います。</p> <p>文化の違いにより、当たり前にしてあげることが、相手にはそうではないことがあるため、理解し合えないと思います。</p> <p>地域の中に英語に親しめる機会をたくさんつくるのが始まりではないかと思います。</p> <p>市の看板等に英語を標記するのはお金がかかることですが、必要なことだと思います。</p>
別府委員	<p>目的、目標をどこに置くかを明確にし、3・4年生は英語に慣れる、触れることで本来の英語を感じ取ってもらうこと、5・6年生は耳も使い、書く、聴くことに目的を段階的に置くとより良いのではないかと思います。</p>
学校教育課長	<p>低学年でもそういった機会はある、ネイティブな方に来ていただいて、慣れたりコミュニケーションを取ったりして、外国人に慣れるということが3・4年生では重要であり中心となります。</p> <p>その積み重ねが少ない5年生と、多い6年生とでは違うため、別府委員さんが言われた事はとても大切であります。</p>

<p>武藤市長</p>	<p>なぜ、先行実施を行ったかという、私自身に英語に対するコンプレックスがすごくあったし、興味が無かったので勉強をしなかったが、今の子どもたちは、そういうわけにはいかない。</p> <p>仕事で海外へ行くと、どこの国でもレストランでは日本語の説明は無いが、日本では外国語の説明があるのはなぜなのか疑問に思います。</p> <p>私たちは、グローバルの中、世界へ出て行くために、あいさつぐらいはできるよう勉強するが、日本では来る人のために外国語表示をしてあげる発想がおかしいと思います。</p> <p>先ほどの中島委員さんの英語を話したい人が沢山いるという意見について、その方たちをボランティアとして参加してもらって仕組みをつくれればまた変わっていくのではないかと思います。</p> <p>英語に対する環境の差を埋めることも大事です。</p> <p>今日、答えを出さなくてもよいが、来年度へつなげていけばと思います。</p> <p>私の思いは、英語ができない子をなんとかしてあげたい。</p> <p>社会へ出た時に困らないよう自信につながるようにしてあげたい。</p>
<p>中島委員</p>	<p>市長の思いは、これからの子どもたちには必要であると思うし、そのためにどうしていけばよいかを考えなければならない。</p> <p>日本にいる外国人が英語を使わないで忘れてしまうように、日本人も同様で、美濃市でも英語を使う機会をつくってやることは子どもたちにとって大切です。</p> <p>できない子（苦手な子）は、興味が湧かないからであり、興味を湧かせるように企画してあげることが必要です。</p> <p>学校教育だけではどうしても差が出てくるため、その差をつけないように、その子自身の能力に合った学び方を与える機会をつくる（手間をかける）と良いと思います。</p>
<p>市原委員</p>	<p>英語は楽しいということを思わせることが大切です。</p> <p>私は苦手だったけど、留学するために勉強しただけだけれど、今の子どもたちには、小さい頃から英語に触れる、話すことはとても楽しいことだと感じさせることで、自分から学んでいくようになると思います。</p> <p>私は海外のスーパーで、メキシカンに間違われたことで日本語を話し、興味を持たれたことがあり、日本でも外国人がいるので、気楽に話しかける機会があれば良いと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>修学旅行で外国人に話しかけてみようというテーマで行く学校もあります。</p>

市原委員	<p>子どもたちは、ちょっと話せたら自信につながり、もっと話してみたいという好奇心がある。現代の海外社会では、3カ国語を話せることが普通であり、社会へ出たら英語が話せることは必須であるが、話してみたいという好奇心がある子に育てていきたいと思います。</p>
別府委員	<p>英語に関しては、義務教育の義務ということではなく、英語に触れるという感覚にしたほうが良いと思います。</p>
教育長	<p>カリキュラムをもっと柔軟にしたほうが良いと考えます。</p>
武藤市長	<p>ここで英語教育についての議論は一旦区切りとさせていただき、私から皆さんにご意見を伺いたいことがあります。</p> <p>幼稚園、保育園、小・中学校から、新年度予算に向けた要望書がきており大きく分けると、給食費・保育料を無料にしてほしいというものであります。今年、先行実施で5歳児の保育料と幼稚園の学費を無料にしました。</p> <p>予算は2,500万円で子どもを持つ保護者に渡すこととなりますが、そのお金はどのように使われるのでしょうか。</p> <p>例えば、無償化の費用で英語を教える人件費を1人500万円としても5人を採用できます。その方が子どもたちの支援（教育）として効果が高いのか、又は、保護者の考えで子育て支援に使われる方が良いのか。</p> <p>私は疑問に思うところがありますが、皆さんはどう思われますか。</p> <p>本当に子育て支援のために使われているのなら良いが、そうでないと思えるところがあり、自問自答しているところです。</p>
市原委員	<p>大変難しい問題です。ある家庭では、お金が入ったから洋服を買うとか、児童手当については、その子はそれがないといろんなことが学べないのでそのためのお金だから貯金してはいけないという話を聞いたことがあります。そういう家庭が多いように思えます。</p>
中島委員	<p>平等公正ということを考えて、使うべきなので、個人の自由となるような使い方はいかがなものかと思います。</p>
武藤市長	<p>これだけ要望があり、次年度は国が行うため、1年間だからと思い実施したが、学校教育の先生にお金をかけた方が、子どもたちの将来を考えれば良いのではとも思います。</p> <p>なんでもかんでも無料にするのはいかがなものかと思います。</p> <p>その額は日本中で1兆円であるが、英語の先生に使ったほうが良いと思います。本当に生活が厳しい方は、そういった制度を利用すべきであり、</p>

<p>武藤市長</p>	<p>今後は使い方を考えなければならないと思います。</p> <p>予定の時間となりましたが、その他にご意見はございませんか。</p> <p>(特に発言等なし)</p>
<p>武藤市長</p>	<p>ご意見が他にないようですので、今まで大切なご意見や色々な考え方があることが分かり、学校教育の中でやること、その他のところでやること、色々なところで取り組んでいくことを含めて参考とさせていただきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議長の任を解かせていただきまして、事務局へお返しします。</p>
<p>西部秘書課長</p>	<p>それでは、以上で第2回の総合教育会議を閉会といたします。</p> <p>慎重なご協議をどうもありがとうございました。</p>